４. 景観の分析

(1)計画地一帯の眺望景観

特に重要な眺望景観
①鷺池から浮見堂・高円山
⑦鷺池から浮見堂・御蓋山
⑩荒池から御蓋山

出典:奈良らしい眺望景観 H23年
(奈良市眺望景観保全活用計画)

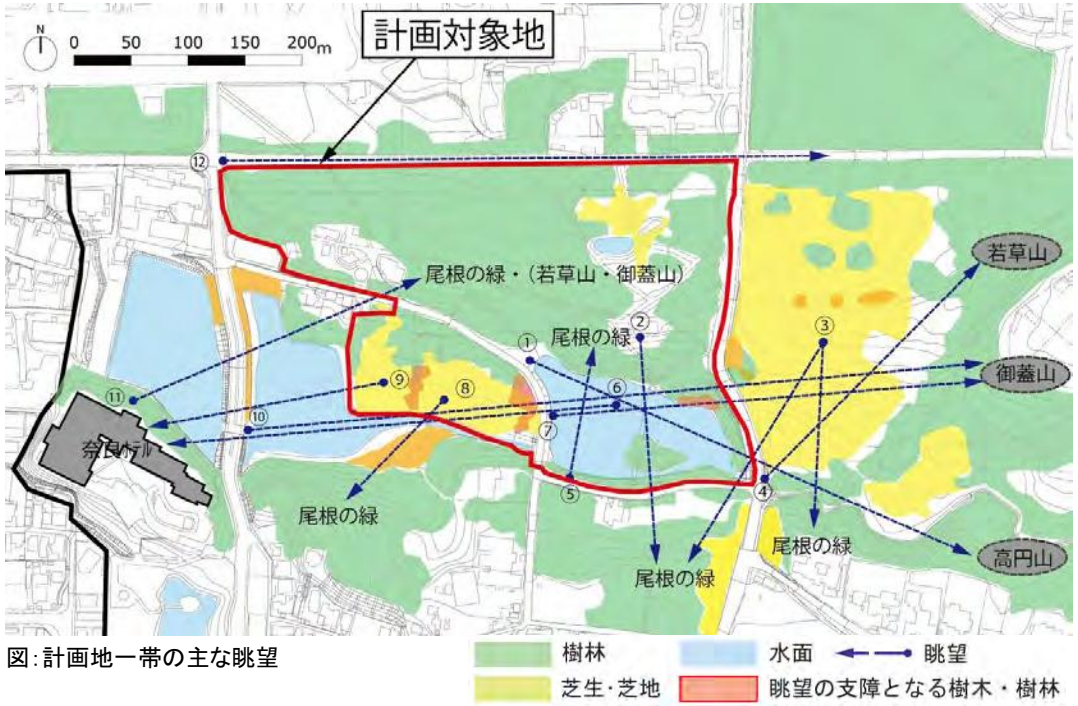
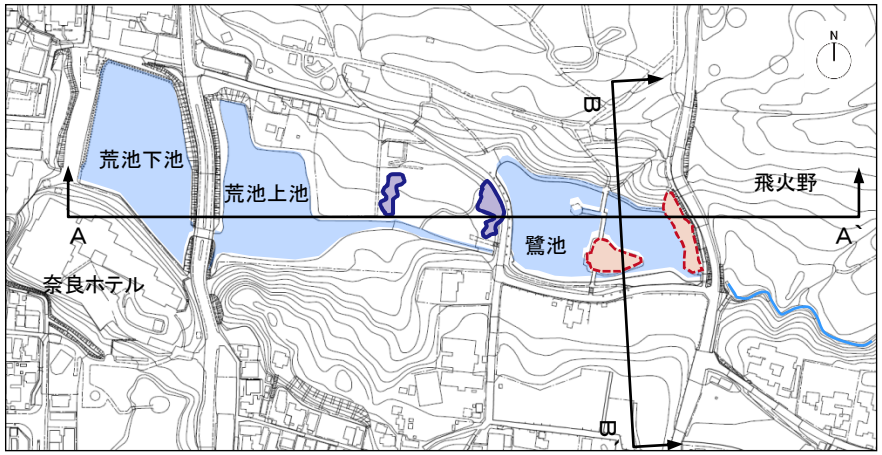


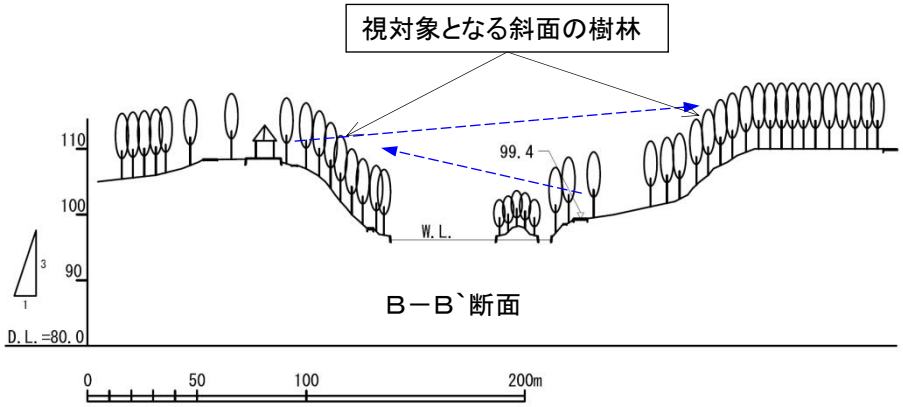
図:計画地一帯の主な眺望

参考資料　景観の断面構成



図：断面位置

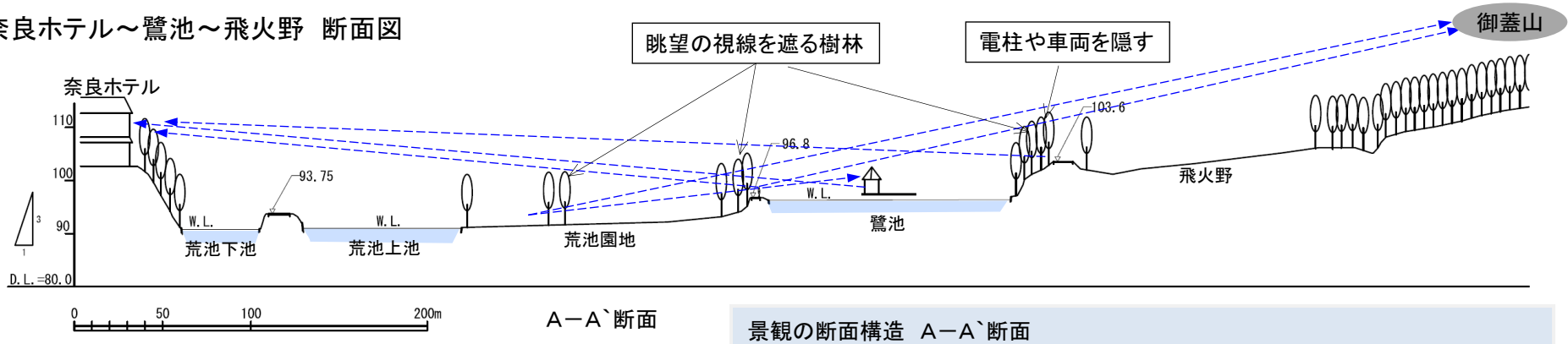
円窓亭～高畑町裁判所跡地　断面図



景観の断面構造　B－B`断面

・率川水系（鷺池、荒池含む）を挟む谷地形であるため、視対象として斜面地の樹林が大きな存在となる。

奈良ホテル～鷺池～飛火野　断面図



景観の断面構造　A－A`断面

・遮る樹林がなければ、荒池園地と鷺池の堤から、御蓋山が見える高さにある。
・遮る樹林がなければ、浮見堂と鷺池の堤から、奈良ホテルが見える高さにある。
・鷺池東の樹林は眺望の視線を遮るが、車両を隠す効果もある。

(2)眺望景観の分析

1)現況の眺望景観

- 計画対象地は、谷を挟む尾根が互いに視点場かつ視対象となっているため、景観に一体性がある。（前頁参照）
- 谷部は池や芝地が占めるため、視線を遮らないため、谷筋方向の眺望が良好である。
- 眺望景観の保全に関わる樹林は、「保全すべき樹林」と「改善すべき樹林」と「樹高と密度を管理すべき樹林」に分類できる。

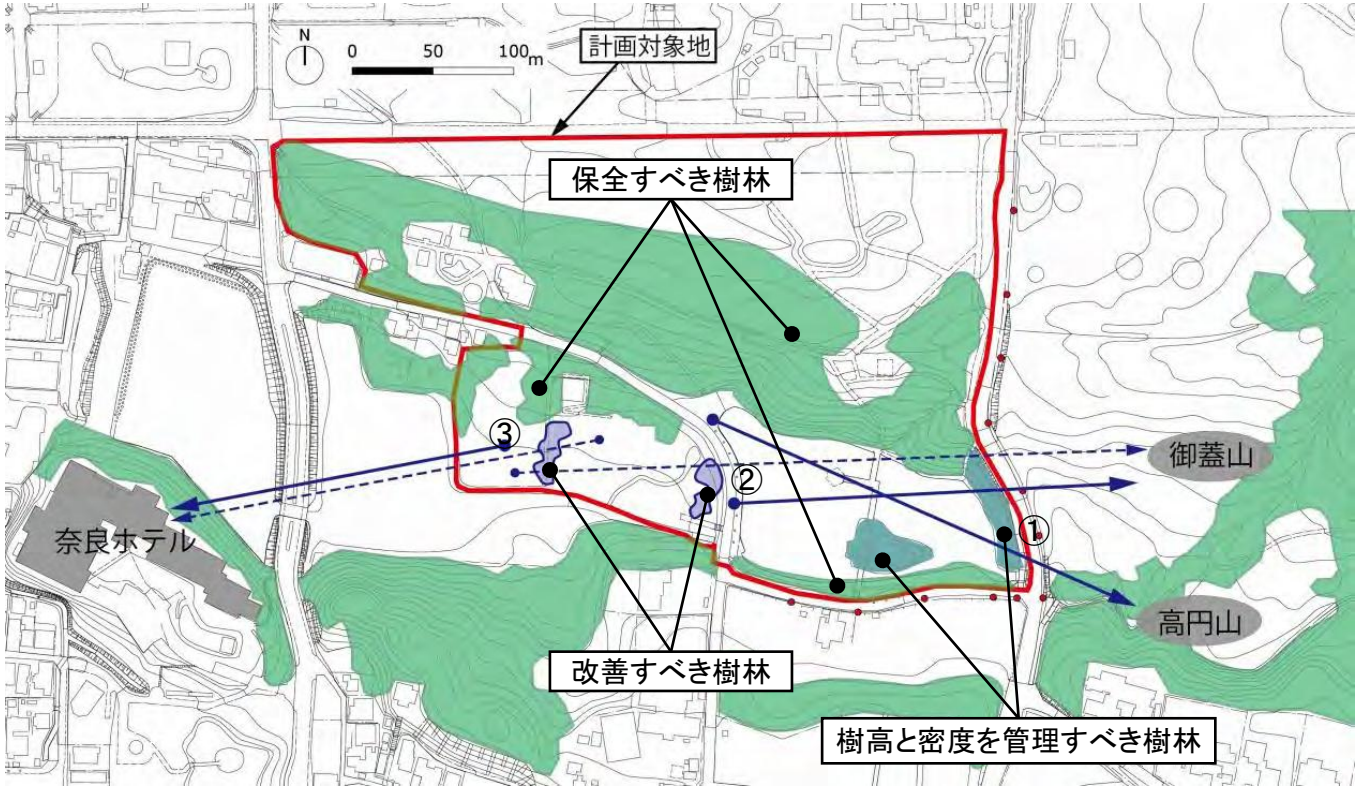


図:眺望のため保全・改善すべき植栽

①電柱や車両を遮蔽する樹林は、山地への眺望の支障にもなる。

②浮見堂や御蓋山を遮蔽する樹林

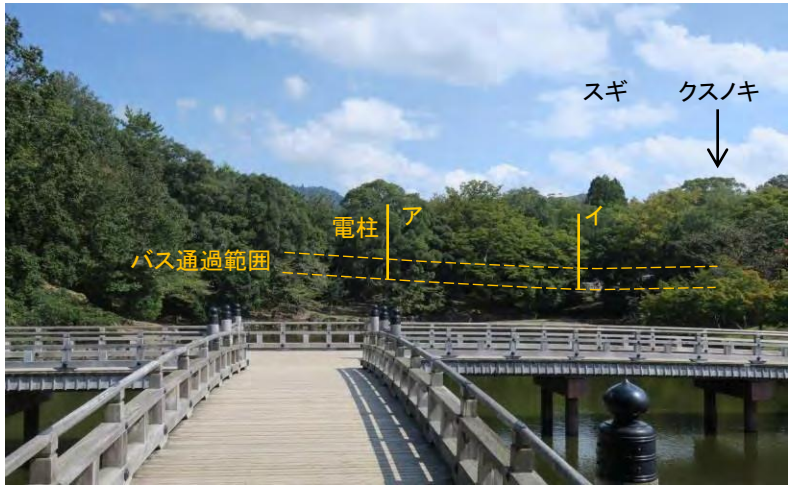
③奈良ホテルを遮蔽 する樹林

(2)眺望景観の分析

2)樹高と密度を管理すべき樹林

・A鷺池東岸、B中島、C浅茅ヶ原東端の樹林は、多くの地点の眺望景観に影響を及ぼしている。
・樹林には、眺望を阻害している面と、電柱や通行車両の遮蔽効果などの面があり、両立するため樹高と密度を管理する必要がある。

① 鷺池西岸から御蓋山、春日山



② 浮見堂から東向 （御蓋山は見えない、春日山が僅かに見える）

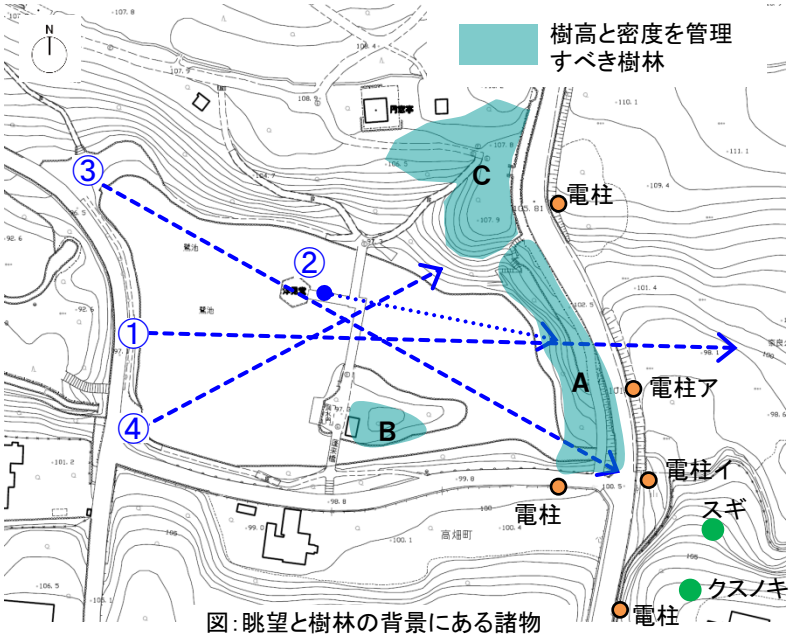
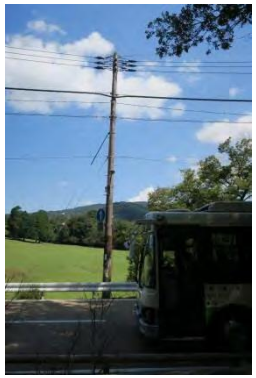
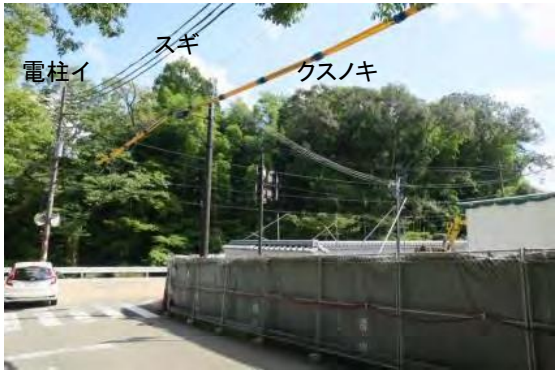


図:眺望と樹林の背景にある諸物



電柱ア



民有地のスギとクスノキ、電柱イ(左端)

注:無電柱化の取り組み
上図の電柱は、無電柱化が望ましいと考えて検討を始めているが、現時点でその可否等は不明である。現時点の検討では、無電柱化が実施できた場合でも、電柱イはそのまま残る可能性が高いと考えられる。

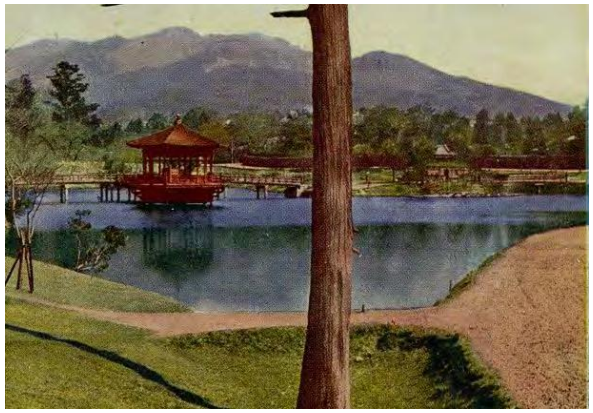
(2)眺望景観の分析

2)樹高と密度を管理すべき樹林(鷺池東岸の樹林)

③鷺池から高円山の眺望の変遷

大正期～昭和期 ：樹林は浮見堂の頂部までの高さであった。
現　　在 ： 樹林は浮見堂の頂部を数メートル超える。更に民有地の樹木が覗く。

出典:絵葉書　大正9年～昭和10年



出典:絵葉書　大正・昭和初期

出典:絵葉書　昭和30年代　※点線は稜線(画質劣化)を示す

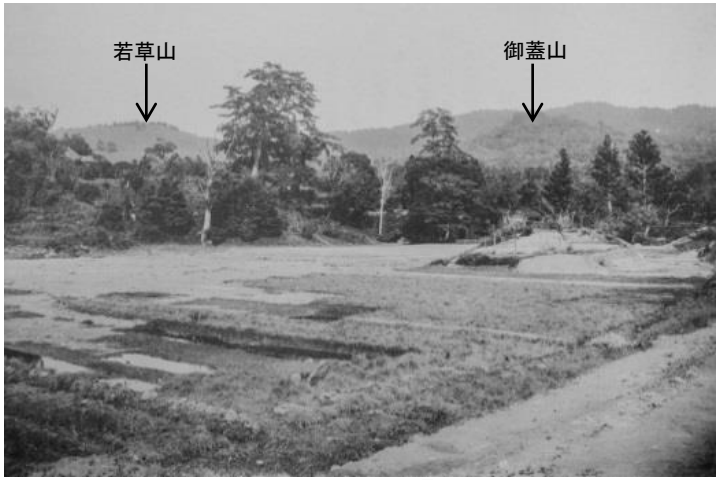
2019年撮影

（2）眺望景観の分析

2）樹高と密度を管理すべき樹林（浅茅ヶ原東端の樹林）

④ 鷺池南西から若草山・御蓋山

大正期まで：若草山と御蓋山が見える。浅茅ヶ原の大きな樹木は点在する程度である。
昭　和　期：若草山は見えない。浅茅ヶ原の樹木が増え、樹高が高くなる。
現　　在：若草山と御蓋山は見えない。アカマツからカシ類に遷移している。



出典：奈良県名勝写真帖　明治43年

出典：絵葉書　昭和10年頃

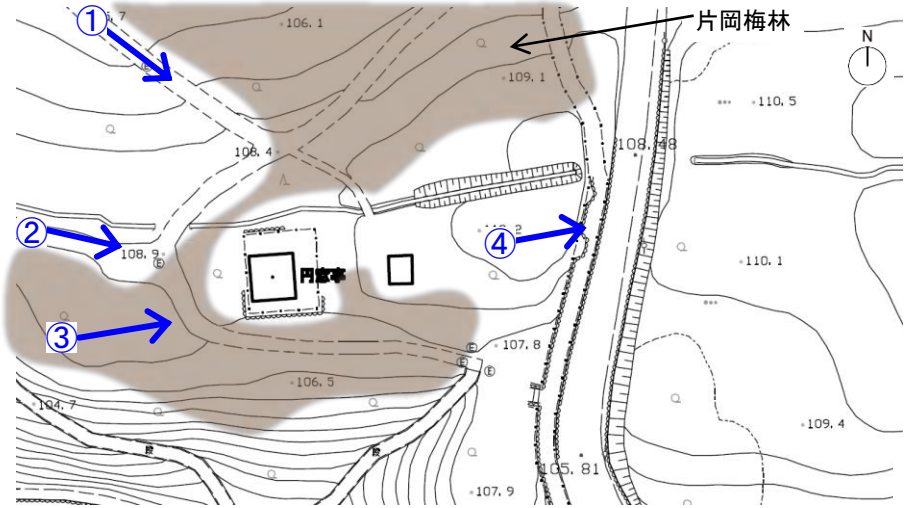
出典：絵葉書　昭和30年代

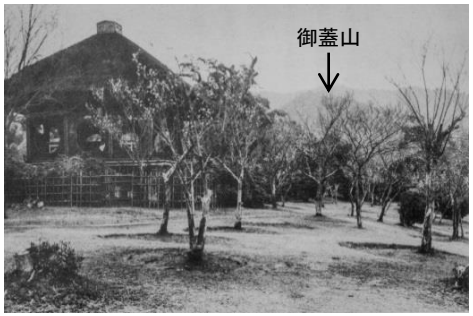
2019年撮影

(3)円窓亭周辺の景観

・円窓亭とポンプ室は、春日大社境内に移設予定である
・大正～昭和期には、飛火野、春日山、若草山への眺望が見られたが、現在は樹木によって眺望が阻害されている。
・片岡梅林は、イチイガシ等の常緑広葉樹によって被圧され、生育不良を起こしている。一部イチイガシも、生育不良が見られる。

評価
・円窓亭とポンプ室の移設により、飛火野、若草山、御蓋山への眺望が大きく改善される。
・片岡梅林の生育改善のためにイチイガシ等の常緑広葉樹の択伐が考えられるが、それによって眺望が改善される可能性がある。
・円窓亭とポンプ室の移設を踏まえて、眺望と片岡梅林の改善を併せて検討することが望ましい。





③大正期　円窓亭の背景に御蓋山、春日山。
奈良名勝寫眞帖：奈良市（大正4年 1915）

③現在 イチイガシが円窓亭やウメを被う。

①ポンプ室と円窓亭が並ぶ。

②円窓亭の左の奥に、飛火野が見える。

④飛火野、若草山、御蓋山が見える。

参考資料:その他の景観変化

植栽・植生の変化
- 全体に樹木密度があがり、鬱閉度が高くなっている。
- イチイガシ等の常緑広葉樹が増加している。
- 平坦部のアセビが、無くなった。

景観に与えた影響
- 参道や浅茅ヶ原が薄暗くなった。
- 山並や遠くの建築物への眺望が阻害されている。
- アセビが減って、地表付近の見通しが良くなっている。

上段:明治・大正・昭和期の写真　※1　大和名勝寫真帖:奈良県(大正4年　1915)
※2　奈良名勝寫眞帖:奈良市(大正4年　1915)
※3　絵葉書　昭和30年代
※4　絵葉書　大正～昭和初期

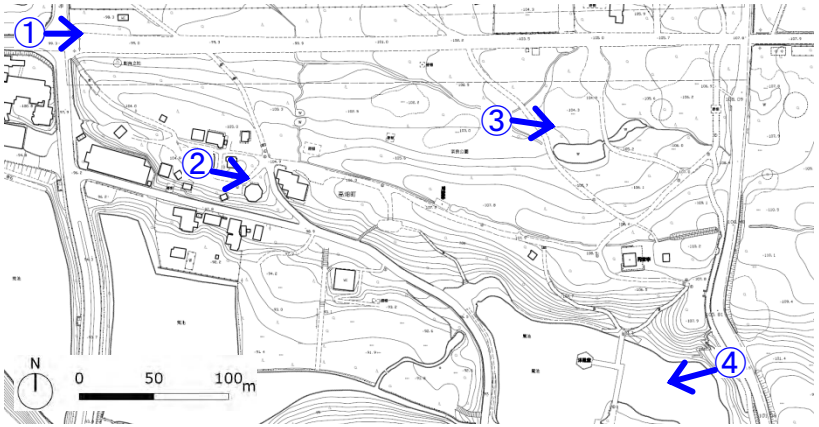


図:眺望位置

① 一の鳥居(春日大社参道)　※1

(上)クロマツ、スギ、サクラ類が並ぶ。
(下)路面が暗い。現在、サクラ類は少ない。

② 八方亭　※2

(上)アセビが多い。
(下)現在アセビなし。

③ 浅茅ヶ原　※3

(上)明るい疎林。アセビが点在。
(下)鬱閉された樹林。アセビなし。

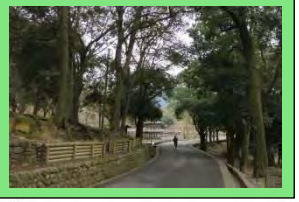
④ 鷺池越しの奈良ホテル　※4

(上)鷺池、浮見堂、奈良ホテルが見える
(下)鷺池東岸樹林によって遮蔽されている

(4)まとめ(植栽の景観評価)

鷺池へのアプローチ樹林
ー現況を保全・継承

鷺池へのアプローチ両側の樹林が、景観展開の効果を高めていることから、保全・継承が望ましい。

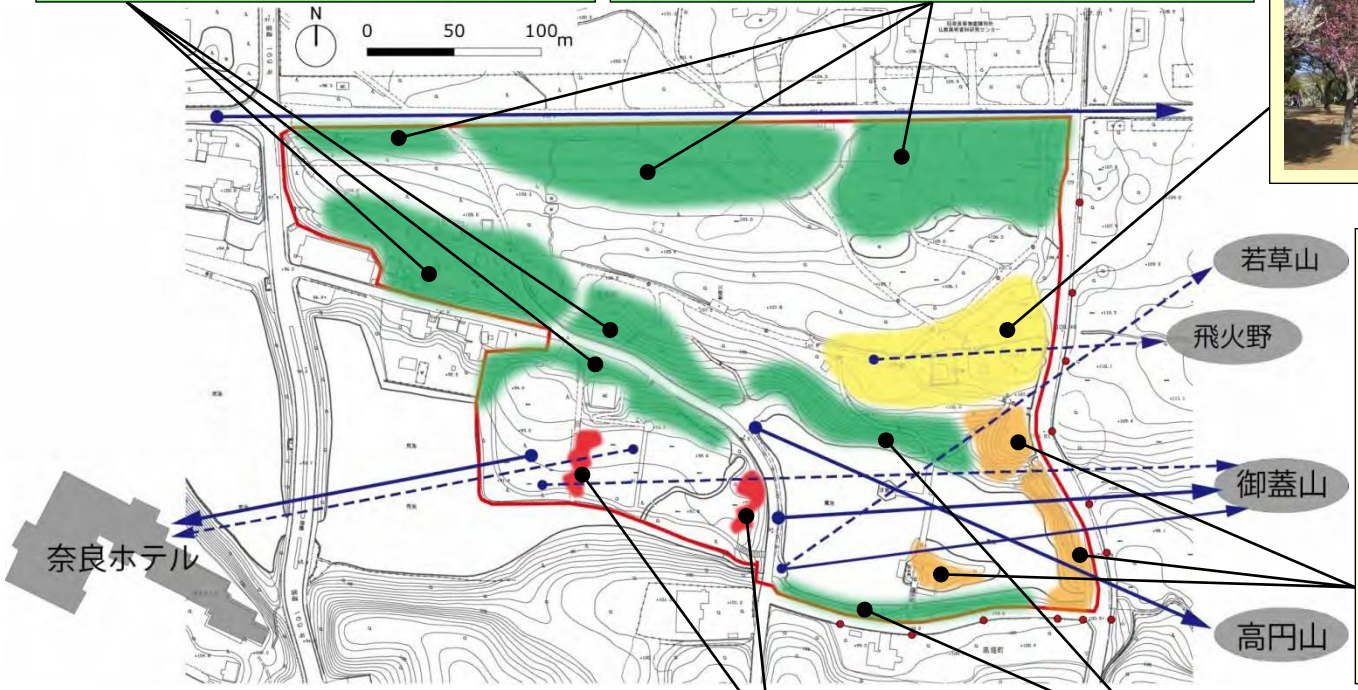


春日大社の参道景観を形成する樹林
ー現況を保全・継承

・参道景観を形成するクロマツ林、スギ林、芝地の保全・継承が必要である。
・他の春日大社境内と同様に、スギやイチイガシ、フジの保全・継承が望ましい。

円窓亭(移設予定)附近の植栽
ー改善して保全・継承

円窓亭移設後の状況にあわせて、梅林の景観と、飛火野等への眺望の改善のため、ウメや周辺樹木の配植の見直しが必要である。



御蓋山・高円山・若草山への眺望を保全する樹林
ー改善して保全・継承

御蓋山等の山地への眺望を保全しつつ、支障となる電柱や通行車両を遮蔽する樹林として、樹高や密度を改善し、それを維持することが望ましい。

図:植栽の景観評価

比較的良好な眺望
阻害されている眺望

評価区分	
	現況を保全・継承
	改善して保全・継承

眺望を阻害する樹林
ー改善して保全・継承

荒池園地から御蓋山や奈良ホテルへの眺望を阻害している樹林は、択伐等の対策が必要である。

鷺池の景観を形成する樹林
ー現況を保全・継承

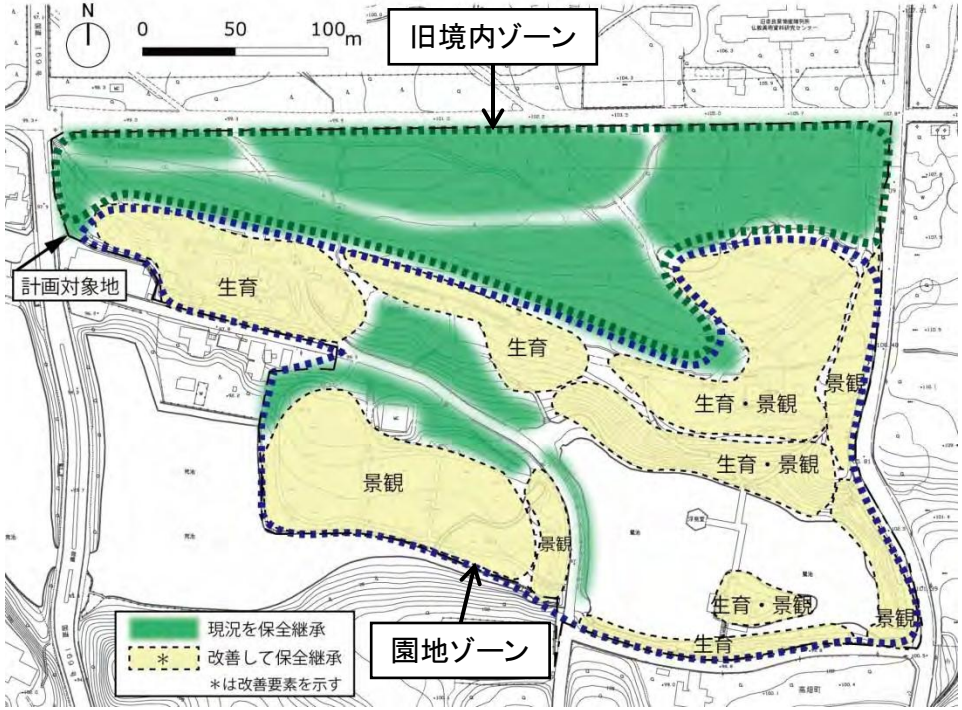
鷺池の南北両岸にある樹林が、景観に落ち着きと一体性を与えている。

５. 分析のまとめ

植栽の生育と景観の評価

これまでの分析・評価を踏まえ、植栽計画に向けての課題をとりまとめる。

・計画対象地は、春日大社の旧境内に由来するゾーン（旧境内ゾーン）と、公園開設後の園地整備によって形成されたゾーン（園地ゾーン）があり、それぞれに植栽や景観が異なる。
・旧境内ゾーンは、参道北側等の隣接地と一体となって、春日大社の参道空間を形成している。植栽は公園開設以前からの樹林を保全・継承しており、現状において問題は少ない。但し、世代交代や病虫害対策など将来に向けての課題がある。
・園地ゾーンは、山地等への眺望や多様な花木に特徴がある景観が形成されている。植栽は、花木等の生育不良や眺望阻害などの問題点があり、これらを改善する必要がある。



図：植栽の評価のまとめ

旧境内ゾーン

ナラ枯れ ： カシノナガキクイムシが病原菌を運び込むことよって引き起こされるナラ類やシイ・カシ類の樹木の伝染病。

●将来に向けての課題

①将来訪れる世代交代
スギとイチイガシは、単一樹齢に近い樹林のため、今後の生長・衰退の先に訪れる世代交代に備えることが望ましい。

②ナラ枯れ等の予防
近年は、奈良公園内にもナラ枯れの発生が多数見られる。ナラ枯れは、大径木化が罹病の誘因の一つであることから、多齢林化を含む予防策の検討が望しい。

園地ゾーン

●生育の問題点

③花木と高木の混在
花木とカシ類やニレ類などの高木が混在するところでは、鬱閉度が高いため、日照を好む花木を被圧して、生育不良や衰退を引き起こしている。

④花木の過密による生育不良
梅林など花木の植栽密度が高いところでは、花木相互の競合により、生育不良が生じている。

⑤花木の老衰
ソメイヨシノやウメは、植栽後50年前後経過して老衰による植替え時期が到来していると考えられる。

●景観の問題点・課題

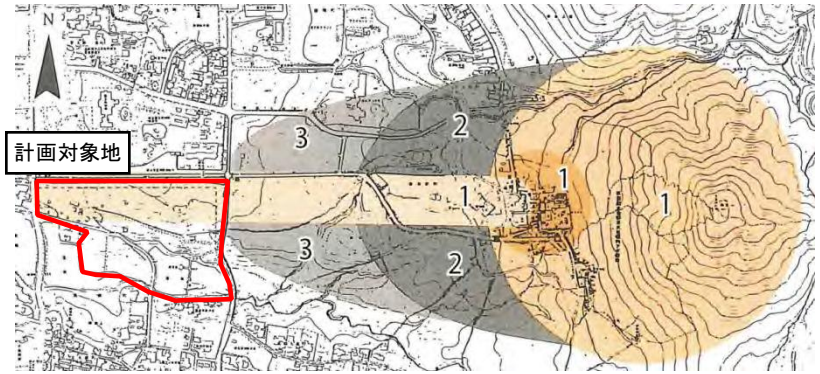
⑥<u>樹木の生長による眺望阻害や開放感の喪失</u>
樹高や枝張が伸長し、枝葉が繁茂したため、山地への眺望が阻害され、<u>鷺池周辺景観の開放感や明るさが失われている</u>。

⑦遮蔽と眺望の両立
眺望方向に位置する道路沿い樹林は、電柱や通行車両の遮蔽と眺望の両立が課題である。

⑧円窓亭移築後の対応
円窓亭移築後は、梅林や眺望に配慮した配植の見直しが、課題である。

参考資料：春日大社境内の計画

●春日大社境内の空間構造　出典：春日大社境内整備計画書　平成26年



1. 春日大社の宗教儀礼空間の中核
2. 春日大社の神域性を演出する緩衝地帯
3. 奈良公園地と連続して半ば公園的利用が行われている地域

図：春日大社境内地の空間構造

●春日大社境内　整備計画

図：参詣道地区地区区分図

E－1参道地区　整備計画

本来の春日大社への主参道であることから、奈良公園や飛火野等の公園的利用がなされている南側に、結界のための樹林帯を形成するなど、参拝者の視線を常に進行方向へ向けるようにする。なお、沿道の法面や路面に損傷が見られるため、改修する。特に一の鳥居および周辺は神地（神域）への入口にふさわしい場の整備を図る。参道に遺存する石橋等の工作物の歴史的意義についての説明板等も設置する。

参考資料：台風被害と春日大社境内林の保護

●奈良公園の台風被害の記録

大正元年（1912）		被害木	17,791本
大正10年（1921）		被害木	9,727本
昭和 9年（1934） （小清水・川島）	第1室戸台風	被害木（目通30cm以上） うち平坦部	8,450本 441本
昭和25年（1950）	ジェーン台風		
昭和36年（1961） （奈良県観光課）	第2室戸台風	被害木 うち平坦部	100,000本以上 約2,000本
平成30年（2018）	台風21号	被害木　社寺含む平坦部	180本以上

出典：奈良公園史 自然編80頁、平成30年度植栽管理者連絡会

●台風対策：春日大社境内原生林

過去に奈良を襲った台風の風向が、北北西及び北北東の台風よりも、南南西及び南南東の台風の被害の方が大きいことが知られている。

出典：奈良公園史 自然編80頁

小清水卓二

「（前略）ここは土地が浅い。浅い根が張っているだけなので風ですぐ倒れやすいんですが、古人の知恵でしょうかね、台風が来る方向、風が来る方向には、風に対して一番抵抗力の高いイチイガシをちゃんとまぶしてあったんですよ。ですから、イチイガシが厳然としている場合にはね、大木になってもスギが倒れない。ところが、イチイガシが老木になって倒れてしまうとスギが枯れちゃうんですよ。其れを知らないで、ただスギあったからスギを植えると言うことじゃ具合が悪い。ということで、イチイガシをうんとまぶしてスギと他の木を植えなきゃいかんのですよ。（後略）」

出典：奈良公園史 自然編92頁　昭和52年2月 座談会“春日の杜”

植生保護の課題

造林的な単純林的補植がこれまで最も台風被害を受けているため、撫育補植にあたっては、種々の樹種が混淆状態となるような補植を行うことが望ましい。

出典：春日大社境内整備計画書　平成26年　48頁